2026.1.22

令和７年度　和坂小学校・環境体験学習桜守活動報告

藤原春善

１，活動日時：2026 年 1 月 22 日 13 時～15 時 30 分　晴後曇り

２，活動場所：和坂小学校

３，活動人員：　和坂小学校（校長・担任・３年生）55 名
まちづくり協議会サポート隊７名
桜守ボランティア７名
兵庫県樹木医会樹木医（４名）
山羽造園２名

４，活動内容

校内のソメイヨシノを５班編成で、観察調査指導した。

A 班（NO21,25）：３名　　B 班（NO19,16）：２名
C 班（NO9,13）：２名　　D 班（NO5,8）：２名
E 班（NO3,4）２名　　フリー：４名

（１）環境体験学習内容

使用道具類の剪定はさみ、高枝はさみ、ドライバー、地挿し棒などの持ち方使用法を指導した。

・剪定（枯れ枝・病虫害枝、冬芽がほとんどない枝・重なり枝・胴吹き・ヒコバエ）

枯れ枝、病虫害枝、冬芽がほとんどない枝、重なり枝など不良な枝を、剪定する。胴吹き、ヒコバエは状況に応じて適宜剪定する。特に主幹枯れや主幹が切除された桜の剪定は最小限にとどめ、原則残置する。

直径 2cm 以上の枝を剪定した場合は、殺菌剤（トップンジンペースト等）を塗布する。

・土壌改良

表土は山中式硬度計 22mm 以上の硬い表土の部分はドライバー又は地挿し棒（40cm）で穴をあけ、土を柔らかくする。深さ 20～30cm には硬い層があるため、40cm の地挿し棒が効果的である。

・樹皮層の改善

幹に着生する地衣類（コケの仲間）を剥ぎ取る。

ヒラタケ等の菌類（キノコ類）の子実体は除去し、殺菌剤（トップジンペースト等）を塗布する。

コスカシバ等の病害虫の痕跡等は粗皮を削り幼虫を捕殺し、切り口に殺菌剤（トプジンペースト等）を塗布する。

・チップづくり

剪定枝を集め、ウッドチッパー（剪定枝粉砕処理車）で粉砕した後にチ

ップを集めて丸太囲いに運び堆肥作りをする。

（２） 調査結果と対策

・B 班 NO19（主幹切除木）

枝･冬芽:冬芽が形成されているものが少なく､枯れ枝が目立ち衰退している。
対策としては、枯れ枝を剪定し、切除部の殺菌処理を行う。

幹：木肌はきれいで健全であるが、多少揺らぎがある。
対策としては根元の土壌改良をし､胴吹きは不良なものを除き適正に管理する。

根元・土壌：表土の土壌硬度は良好である。しかし、土壌深度 25cm 層は非常に硬く（22mm 以上）根の侵入が困難である。
対策としては根の成長を良くするために土壌深度 40cm まで掘り返す又は地挿し棒で穴をあける。

・B 班 NO16（太枝心材腐朽）

枝・冬芽：枯れ枝も少なく、冬芽は良好である。
太枝にヒラタケ（白色腐朽菌）が着生し、枝分かれした枝は心材腐朽しているため、形成層のみで生育している。
対策としては心材腐朽部及びヒラタケの着生している場所を切除し、殺菌剤（トップジンペースト等）で処理する。

幹：ウメノキゴケ（地衣類）が多数着生している。
対策としては、ウメノキゴケを除去し、木肌をきれいにし健全にする。

根元・土壌：表土の土壌硬度は良好であった。しかし、土壌深度 25cm 層が非常に硬く（22mm 以上）根の侵入が困難であった。
対策としては根の成長を良くするために土壌深度 40cm まで掘り返す、又は地挿し棒で穴をあける。

A25 胴吹き剪定

B19 ドライバー、地挿し棒で土壌改良

B16 ヒラタケ、ウメノキゴケ着生

B16 菌類・地衣類切除後殺菌剤塗布

C9 胴吹き剪定

C9、D8 枯れ枝・胴吹き剪定

D5 ヒコバエ剪定、E4 枯れ枝・胴吹き剪定

剪定した枝をチッパー車へ運びチップづくり